Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
A
M
B

源氏物語
四
特
969
4

遠13
門
號969
巻4

繪本金花談 巻之四

目録

梶原貞清言託好意幽友傳事
岩城兵庫竊ふ逢ふ伝若ふ図
諸士爆金ふ池刎ふ図
友傳隱居形ひの事
在國の侯士表裏の門を守護とる図

其二

友衡隱居の圖

其二

友衡隱居番代十波の事

右辭定船田ヶ義言法士の尊貴に弱るとこ図

番代評儀市川猿河義言の事

友千代家勢相続の事

繪本金花談巻四

桓原貞清言葉好息幽友衡事

奸曲邪智天の忍むべきもとくも直に現ひ伸るべ[illegible]あり。岩城兵庫[illegible]才系ゞ謀計代関ひ大賊太支友衡に放蕩を唐わ。[illegible]て廃さんと計りしみ果して[illegible]許の行狀[illegible]。今は世上の人口さゞめくもうしろめ。[illegible]才系代拓き密事とえうる附才系ゞ曰くやく桓系貞清[illegible]命代備友衡と押統。長久の[illegible]と関ひ[illegible]と[illegible]人に兵庫[illegible]時いつわりと[illegible]名ざ貞清の[illegible]に[illegible]る。此附桓系貞清を天下に[illegible]る[illegible]勢。[illegible]く強盛大小の政務[illegible]人の[illegible]ふゆ。真生質暴悪狼戻ゆて。仁[illegible]かどもなく万の事につけひがごとを[illegible]とつゞく。桓系一門の威勢[illegible]府[illegible]震ひ人[illegible]て[illegible]者なるべき。岩城云庫も[illegible]今は[illegible]

一ノ城兵庫
寵臣逢元成
若る図

ぞ[illegible]の紙幕し。大全の最初己が子を殺すとりく梶原親の賀しゝ塔
昭中の密策紙ぬし。垂二の後楠と城より。將を序。貞清が方みつゝそ
ヤるゝ。友衡近来酒色に長し。一向國政を荒し。幼君追く正しゝ。
伊勢に近く面向く。某すべし友衡が金を伊勢る友貞紙めさし。
友衡放蕩の風あり。速に隠居つゝ世子に付しけるべし。貞清
の曰其事尤也。友衡源左の後友に代家督と定まるべし。孫子
いかゞして行はるゝや。兵庫の曰友に代尚幸僅に成年上方より伊達
奥に頼る所の軍を集。帳夷押の地。友千代幼稚なるのなれば成長に及
ばゞ兵庫頭を以高代に立て作まつれ。ゝ此。柳高代を國主に仰
の勢ひあり。山附某密み毒を盛りて友千代を殺害仕ん。山附中と
家名相続つゝ。べき者某より金に入れ。其時その後拳を[illegible]
家紙領[illegible]の堂の民おあり。とゝ。貞清大きに驚く。國後教弁ゝ
弾され。ゝ。別て其後梶原花孫る。先城兵庫頭。伊達伊勢守の方へ
使者紙りゝ。四ゝ十入及有あり。早く出立べし。ゝ中を[illegible]
[illegible]ゝ。新しゝ[illegible]。伊勢守ゝ某寛仁の長者ゝの軍ゞ[illegible]計
おゝしも謙らず。伊達の石やらんと。兵庫頭の日乃。梶原の[illegible]
清西人の人ゝ紙困ゝ拓き。拙今日者ゝ紙拓。ゝ金の仮ひあゝ。ゝ迫来
友衡ゝ三角に遊里ゝ通ひ。踏ゝ[illegible]ゝ畢賜の後と[illegible]及び加之百金
紙貴ゝ。困民をゝ[illegible]ゝる莫の者悔紙寛め。利頂城を受出。切捨
おゝ忠諫の者紙ゝ対ゝ殺せ。ゝ[illegible]ゝ上間ゝ達ゝ。今ゝ友衡先
紙紙悔[illegible]の紙ゝ仕ゝ[illegible]ゝ。右の石行[illegible]ゝ[illegible]
紙ゝ[illegible]代連綿の名家孫幸あゝんもゝ。[illegible]

諸士
鎌倉
地到
る間

るに同陸居外ひ有べし評定遠ゝに及びて六貫尾宜しかるべし一刻も早く國之老臣ども無評せられよ此事は其好去とこそ中入べしと。

さも密解ゆゑ寄ると。兵庫大きに怒る新田伊賀守は其夜密二人をゝく詞ばとりくに出意を以て同らく通異なる。連國之へ中遣し退陸の出外ひ居をゝ。

兵庫殿の面前（帰）才系も如意中ゝ。間受周防五鴨保左衛門呼よせ自信の内之義伺ゝ。仍て周章出ゝ。此命年國

みゝをとべしと。早打ばかりゝる。國の老臣廿四人是も一緒ゝ。

緣命出ゝ評議とべしと。茅氏上ゝ強命ゝ弧付る事ゝ駿谷

帝力。行嶌四十郎。左右衛門。同上総介。右馬頭。同弾正。同武蔵。市川

後河。其外。葦名天童。後川。遠藤五島の諸侯ゝ強命ゝ来ゝ。

しゝく大仏切通の上屋敷ゝ居住ゝ。密井中屋敷まで居ゝ。此事

を友衡ゝ知ゝせ申ゝ。ゝと計ゝて也

友衡隠居願ひの事

却説友衡の老臣茅ゝ。ゝに強命ゝ来ゝ。後日ゝ出城兵庫保

保勢寺に會ゝ。ゝ。ゝ。

らるゝ道理もいとゞも。諷諫ゆゑ逆ひ忠ぎる中を伺ふも後方なくべし。其
内史術明君の半なりとゝ一端如是にまゝ世のゝ人ども術策ゆゑ
せ忠ゝ思ひ分外よ。事一家那よれびさう。今ゝそも扨ゝ作通
も有ゝ。一義る常刀ゲ曰然ゝ其ども術所ゝ見屋ゝて君不彩
絲ゝ渡ゝ世ゆゝ。術源居有世ゆゝ人ゝ中出班ゝ。一雑心挺里ゝ作通ひの所
白武見ゝ。其後術源居武摩ゆゝ。才京ゲ曰然ゝ通ゝ出ゝの時
鄙武何ひ出業内中ゝ。ゝ余ゝ。今彩其日ゝ書ゝ切ゝ。ゝ友働ゝ
子事ゝ切ゝ。ゝ考ゝ忠ゝ。九月十三日の歌ゝ御の通ゝ渡ゝ後川ゲ車
ゝ引連ゝ忠ゝ。ゝ鄙ゝ鈍ゝ。ゆひね。才京義ゝ絡ゝ。ゝ事ゝ。れゝ帯刀
双十長ゝ忠ゝ中屋ゝ。ゝ人ゝ。ふ。告ゝ。ゝ世ゝ。れゝ世ゝ金ゝ上ゝ。ゝ
事ゝ。ゝ門ゝ中ゝ門ゝ書武退ゝ行鳴ゝ十鼻。裏門ゝ。呪谷弟刀

入ゝ帰ゝ。帰館逆ゝ。ゝ待ゝ。ゝ。ゝ友働ゝ待ゝ歌ゝ。ゝ。ゝ戯ゝ。ゝ秋ゝ。ゝ後ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。

古今金花吹ゝ巻四

左門の
侍士
表裏の
門ど
守護
とりの図

とく。托ふくめ左衛門に迫つゝめひ。芳川井小弁に命じ。竊よりを[illegible]
門に向かう。何者ぞと。[illegible]友衛早く周丸のひろを和助に[illegible]
は今の者とぞ。[illegible]る。和助が曰。嘗て有[illegible]友衛此を[illegible]
ぞ。[illegible]。[illegible]。[illegible]。再び裏門ふ[illegible]戻り。門の道
いと高のひ。[illegible]。[illegible]の大[illegible]の出府。子ど[illegible]の正[illegible]
と。諫言のつゝめと。[illegible]。向後[illegible]と[illegible]改め。[illegible]
じ。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
ぞ。解[illegible]。何奴[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
て人[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。友衛門[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
幸ぞや。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

よろゝ速に服捲切。しと。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
止めを。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
なげひ。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
しやうて門内ふ。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
物。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
諸士の面。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
衛の[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
配列せり。友衛[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
序一番[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

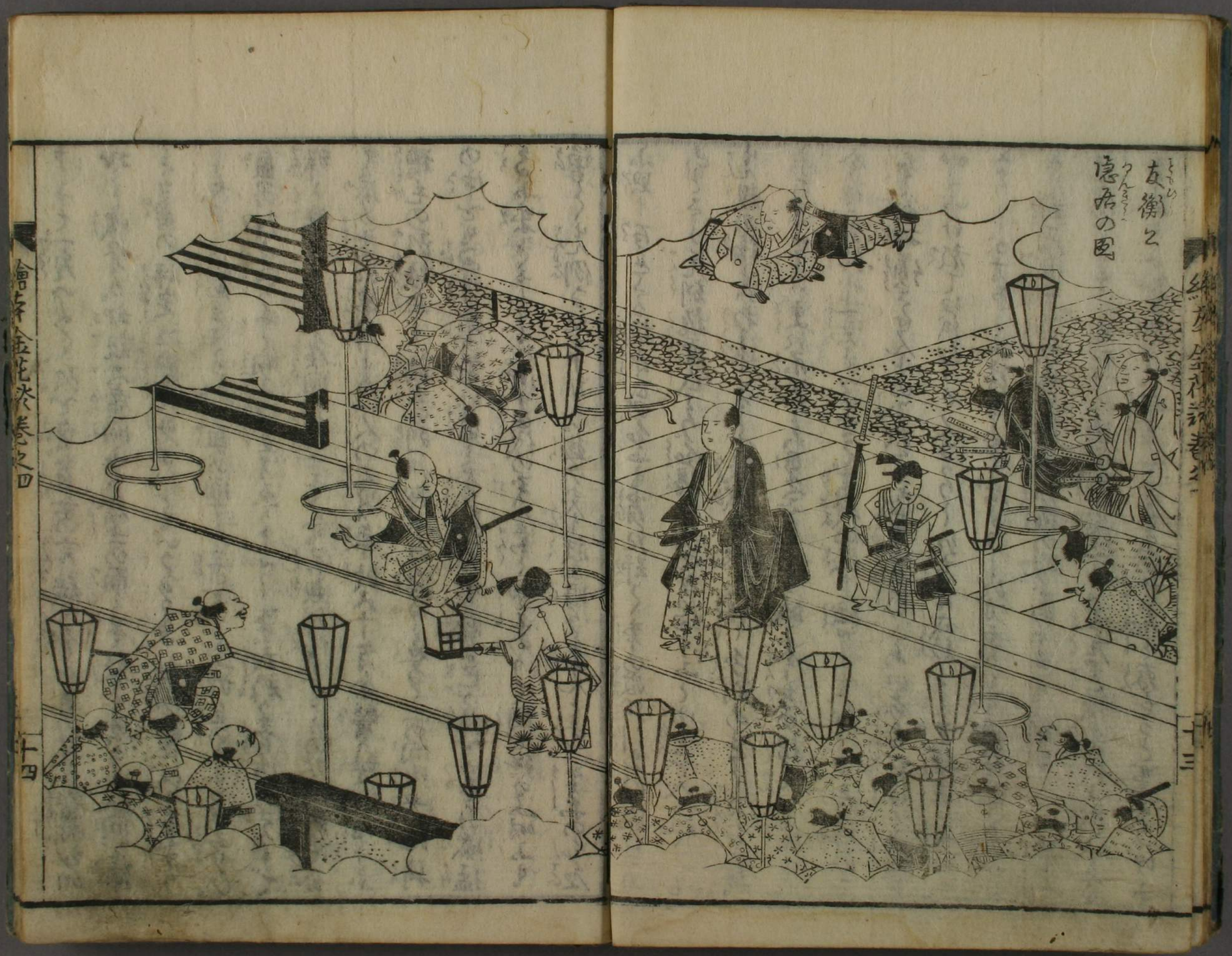
會津 金花火 巻四
十
真二
會津 金花火 巻四
九

下入〜うゞも。遊里の通ひ止ざるのゝう。石行脚の事ども日くに長ゝ〜ふ
より。一〜上聞に達し。既ふ中ぶ賀べ。石橋原光禅寺當時拙者ゞ
孫家ゝるふゝう。名家の振捷低氣の毒に思ひ。先代内ゝ低ゝく走ゝ陵
居と進めよ。尤ゝ名ゝ於ゝく〜後難〜ゞ。あんもえゝう雅〜と。好ゝ低ゝの川て
ゝ。ゝ〜ゝ。今殺國之中ゝ〜ゝ。ゝ〜ゝ。ゝ〜ゝ。

の要害。七歳未満の小児に所領の采邑をあたへ、千代十七歳に相成まで、ぱ収兵城兵軍頭と成て番代おの〳〵出府。再び願ひ出て〳〵の鈞命をうけ、何事もつゝしみ言もぞこぶに所島みな良近く出。中上意の統違背仕る者、のゝ〳〵もとゝ我家を救代連綿と尾張家系。幼年の人代あり、家督に成て〳〵時ふる曾〳〵義代と相立て事。先例もうゝ〳〵ぱうりあり。後に意無詳伝。追〳〵出返答十上をまつ〳〵中みな貞清のうて立て先祖拾年有まで、然とも。此度の義を御存も有人、何人の貴尾なり。義上意遠背致お致てへ〳〵作出さるゝも斗さ〳〵。能く思ひ代わく〳〵。心得ちがひ、ひとりに者さるゝ中さるゝ人〳〵の者〳〵能くと〳〵して退おぜう。足さう人〳〵を補ひ。兵庫頭秀時に勢子友貞

とも拾人さ多。其外諸士一統に張り戸川義とそなへ〳〵る上の同ふ五庫政叔物及び老臣の人〳〵。次の同ふ中老れ諸士隊猪将其家の人平士の車足のおく〳〵に列さう。此時片嶋は十良五左衛門向ひ貞清の図を代後ど。次ふ諸士ふむひ。今般幼若御代交りに付番代相初ひ〳〵との事。彼れども先親さう幼稚の君代ゆく家代さら〳〵ものゝ〳〵も所つ代ゆく。番代所ひと出〳〵先例なし。今回御変無詳の上。出会中屋敷よ〳〵改至て所さう。古く心屋ふ存ども者ハ伏義なく中さ〳〵と一生代此と顧れ〳〵ろし。能く〳〵て発さつまり。五よ多代出〳〵とのなく相後て拾ろ。才ふ幼中た古ふ向ひ。伺と御家の出大事五ひに後りていまさ程〳〵義言語と発〳〵れど。歩ゝとも五ふ者の統中さらん通理よ。ゝるゝ果ゞる事で

ぬしくへ叫さびの沖まで代子細なく受られて宜しかるべく其へ入れと。我こゝの御ふ
外誠にうたがはしき度なり。才一万金代費しの人へ憍者のもしくに紙
る毒と術を対るこの事へ上へ忘れとのてるに近く他家小男の緒侯
うべ術改易う将ゝて困窮す地も拾付るこれ御名家とつひ家
なるふよう何事もなく。ふ梶原氏の好之氏なく。沖源左の内之
とも作ゝなく後の対宜うう。表向御祭るゝ一ゝ代ゝ中ゝ家ゝ危
の社ゝ為ゝ代家の先例之ゝ為ゝ私の家風代ゝ暮る財産ふ
祀代我是之儀ゝ出何文退表ゝく勅之ゝ之のひ実の病気ゝく幼豆の
外に当代始ゝ為ゝ代ゝ為ゝ代ゝ為ゝ代ゝ家風ふ違ひ之事
へ中ゝ之ゝ代ゝ代ゝ代


友衛と
意地の図
倉本金花炎 巻之四
十四
十三

中まで一度つよく臣と妾の言葉も発とりのなく静謐
なる成にける。却説大廣間ふと諸士の面々呆れ驚き居るべ間と陣
とる奥の評定所の勅ハ見やれども いろのる事 数間 猶ハ仰と立まう
しやさ〜に初まざる如き奥の間より系とくろぶ坊主の出る様なり。
奥の評定いろ中と同じ。坊主オ系ろ中せ〜事。武勇ご名話よろまで
繹よ語りうれば廣間の諸士さへ人も居恐れ傷どるりのなく。新田合
て居り富に未席より一人の大男年齢六十有余鬢髪頭向ふ
鬱毛の頭振乱し。諸士の列代押分け居る二の間中老陸騎
の中ともも才系ご系に進ぐ勇敢中ご様と実ご威猛
る中来ぐ中ろハ。御家代の系ハ若く幼主あり て国と絶ふ時ふも
曾ぐ先例る記事なり。然ふ今殺ふ浪ふ人とある事ハ名屋

まざ申して正害ご殿様御行跡正しのび。暴下より御答えもの
ふる打柄ふれば呈代遠者ふ所ふ御家危ふ通らんと
さ〜いのふ通ずぞ。実ご愛堂ぐ ふる大国の元老として君の側ふ有
ふ〜君家の危ふ事とも諫び。身代拾く直諫をもなすべ諫
怨ぐして年月代ふ。今に至ぐ始て危代ハ知ふ不知ふ者
なり。直柄勘平ご ぐ ふる者ふ小身ふ ふ自己の一命と拾く
門諫言代中。御手討代ふ ふ 御家ふ〜ハ。ふる反おわ〜 鉄に育く眼ふ遮
ぐふ様。御結の遊ふ通ふ世の事。最ふ ふ ふ〜や悪代御取り
と存せ ふ代ふ 思ふ 知ふ なぐ〜ハ代 張ふ。嗚呼 斬て 絶ふ 家
の孫事と成ふ危ひふ代ふ ふ ふ 諫ふ ふ 御 ふ 孫賊の 忠
者とつぐ〜。知ぐ代て諫ど。危怪代顧ぐふる人ふ人ふ代

そ家の危さを知人は而以もなし。芸術の奇才と持ながら。勅意をたよりとせざるは
の紙を[illegible]しむ。そ[illegible]の奇才と持ながら。勅意をたよりとせざるは
な。一命を投て諫をもなすべし。唯今にあり。先角の義論よりなく
[illegible]。人を知ざる其ゆゑ眼なり。更に忠臣と[illegible]ぜん。[illegible]
[illegible]殿の叔父[illegible]ま多ば。[illegible]
[illegible]傾[illegible]義向一通[illegible]御諫[illegible]
なされざる人。後日の義論を防ぐと中りの[illegible]其上[illegible]
なり。彼孫家[illegible]書代作[illegible]も不審[illegible]。[illegible]
書代とうせのひ。御威勢今日より十倍仕[illegible]も。直実の義[illegible]
ゆゑ。書代を[illegible]とを[illegible]退も[illegible]唯[illegible]て一
言の[illegible]退もなく。才ふゆゑ義[illegible]偶人のごとくして[illegible]

来。我等更に[illegible]人[illegible]書代を受[illegible]も[illegible]
[illegible]とも其諸士の班中にあり。先親の例[illegible]書代[illegible]
[illegible]不得[illegible]大[illegible]
[illegible]誠忠なり。諸人[illegible]
其容色質朴[illegible]も禮儀[illegible]直実[illegible]
田新[illegible]。[illegible]諸の[illegible]
庫[illegible]
[illegible]
席[illegible]此身[illegible]。我[illegible]
騒[illegible]事[illegible]
[illegible]

十五

其二
十六

[illegible]打墨に海の家を初め[illegible]として[illegible]飛ばしつゝ其腰より[illegible]賊暴惡
成直二つみとる。正直の直[illegible]
飛ばしつゝ[illegible]。行島双十郎。其中に割て入次の間より人〻船田成
引出されしかつゝ大勢一同に入来る。新[illegible]を指た次の間より[illegible]成
新[illegible]を[illegible]と上。我一命成拙く出者成[illegible]さん〻[illegible]ぬんで憤
[illegible]双十郎[illegible]。船田新[illegible]
[illegible]双十郎[illegible]狂[illegible]
[illegible]。諸士狂人[illegible]成[illegible]
法例あり。[illegible]
る船田と大小の別いあれども。[illegible]
加[illegible]成[illegible]兵庫[illegible]大等の[illegible]

[illegible]。[illegible]の[illegible]成顧[illegible]過言[illegible]
科のゝ[illegible]事[illegible]成[illegible]事[illegible]
高貴の席成[illegible]。只顧豪疆成[illegible]。
船田組合の仲間中。狂人[illegible]損遠[illegible]
[illegible]成[illegible]
損遠[illegible]。双十郎仁[illegible]
[illegible]。[illegible]成[illegible]
[illegible]成[illegible]
行島[illegible]成[illegible]。
番代評儀市川猿河[illegible]の事
既[illegible]船田[illegible]直[illegible]の[illegible]四[illegible]の[illegible]

と見て合戦をしかけうる。行隆は平鼎中ゝ〻に最前某うゝ中しる事へうで出家有るべき。今日桓系氏の子孫上意に背くの罰を以て即合戦をもとゞめ給の指合をもとうたる諸士も無評の上退くはゝゝ大中だゝとやしい。既に辞退の義承ゝ〻ゝ。ちゝゝべ今日の評義を受るう事ぬるゝ。るゞ賞ゝゝゝゝ評定に和氏すべし変者しゝる上氏評定をゝ一変ゝ。其後桓系家へ返さるべきゝるゝ。

尊氏桓系氏へ言付ゝ上ゝ。其後の指式もいゝ代を知ひまらゞゝゝゝゝ。鈎命に背ゝゝ物命に逆者ゝゝ歳全の出処をゝ代歳ゝ。図城をゝゝゝ敗すゝこゝ地出るゝ事の出ゝ落ゝる時。若速ま歳命に従ゝ図城を渡さゝゝや。

一変ゝゝ一変ゝゝ。朝ゝ源ゝ狼狽ゝ。果ま代を受ざゝゝ

しゝる上の評定をゝ者ゝゝと。一旦氏姫ゝ顔ゝ。何ゝゝ最ゝ

評定ゝ為ゝ出来ゝ事ゝ氏ゝゝ。再ゝ敗ゝ一言氏出ゝのなゝ。市川殿ゝゝ

僅ゝ廿ゝ出来ゝ事ゝ氏ゝゝ。引を進んゝゝゝゝ。評定氏の評

定ゝゝゝゝゝ。何ゝ競ゝゝゝて作合ゝゝるゝ乃ゝべき。事ゝ図ゝ衛覚

紀ゝ羽ゝ真ゝ武則ゝ。安ゝ吏頼時ゝ始ゝ一族ゝ信ゝ

ゝ頼義将軍ゝ助ゝ東夷ゝ切靡ゝ功ゝ初ゝ鎮守府

将軍ゝ補せゝれ代ゝの将軍家ゝ向ゝ仕ゝゝゝ。ゝ紀遠

の地ゝ保ち更ゝ世ゝの大樹ゝ。地ゝ割ゝ賜ゝゝ。大樹

ゝ臣の中ゝゝゝゝ。善ゝ天の下ゝ天子の有。化のゝゝ

ゝ軍ゝ制。假ゝその任ゝ彩ゝゝ理ゝ重ゝ図ゝ集ゝ

大祥寺
和田義
盛士の
耳目を
驚ろかす図

真二

ともいふべき事○て将軍家の下知ふ隨てこそ。あ義をのがれふお
ろ〳〵紀を謹く義伏し。曲政異賢のいたふ及ぶ。國城をちう
矢石の有り尼浪つ六防戦仕り。事ひろまざるに偏を速に城頭
よ出て敵ち。蝶と共に樊を仕んふ。の来固き事の必ず。一戦
とぐふ一変仕べ。前く殺るべ紀の来をひまず。恭恭として
中々を八一刃の人く忽ち市川が言の凄くうふ精むさうやうふ
こそう。昭谷帯刀大きふ感じ。仕るうれ市川氏の我言実に申紀
と抱きぐし。此上も諸士一統無判丸固め。毒代を必ずふ一決し
家の奥廉を朝の足利ふ往とべ〳〵とこれより弥義来れくと
ひくちりやく〳〵国士大臣より。小鬼の子士にてるすぐ。鬱〳〵く
血刺とぐ〳〵みを伺ふ直後第力列社ふ向へ共上幼主國務と作せ

らく〳〵時を一族の衆方より十又家に及ぶ多ら〳〵すぐく。後見のき
ろ〳〵ぐ足まぐその先例なり。幸ひ兵庫若勢州若衆家門の貴賤
ふやて〳〵多の人ぐ若芳ぐ〳〵衆後見ふさ仕下さるべ。ひ
まぐ〳〵ふ云庵を中毒代とうり得ざるの人弥合せ
ぐ思ぐ〳〵ども。ぐ〳〵笑ひ敵嘲を。ぐ〳〵ぐ中を後見彩ひ九の事を。さ人
者く得ぐ〳〵毒代とうけ〳〵ふ〳〵も来に於て毒代辞退
てさんとなぜ〳〵処之後見の来ぐ〳〵ひくりしあるべ〳〵行為双
十夏右手紙浮出〳〵。就書とをてめ五月貞清の子ぐ出〳〵る。

友千代家勢相続の事

斯く其日退座の後才京勘解由ぐ兵城兵庫ぐ方に参じ頭合
用後〳〵ろん。既よ舟田ぐ婦ふ上りく。諸人多ち一致ぐ吃ひ世方の

大全を打こう。唯今強く事紙をくゝんとせば。却て禍人となるべし
どうしてゆるべし。若これより梶原氏の方についてうのひ日渠等あ
代四元のみうりて事出るべ。然ひ内仕下さうべしと和入うの人
俗人まあ代と成のゝべしも。友千代まべうふ五歳の小児共人ども
毒殺せば。若年家氏相続しあつる。必定せうと掌紙さんぬく
中ふで。秀衡大こふよ移こび。其後直に自腐の矛ふつう。国後
教刻ふて屋ゆね。既に翌日ふりしゑ。国老服谷帯刀氏ぬとし
て梶原氏の矛にもう。亦士志田佐を吏をゆく。然ま氏出ゆ多しば。
ゆうゝく有く自清人氏成ぬ出ゆ。若く幼稚の人ゆ督相続つる氏
砌も。あ代の例こまるたふ付先親の指式ゆまう也。兵庫氏伊智ち
あんとりて。友千代十五歳まゝく後見にて。変脱氏出脱

被見せう。此事いうぐにのんうをうとしてども。其別脱ゆ取
拾ようう浦相はるゆう。頭書ゆ受えぬなし。然書氏受えぬなし
ゆる。是より後を梶原家賄賂の金銀山のごく猶う。此ごべの
貢尾氏ゝのゝゝふ真年ごとく。翌年二月十三日友
千代ゆ家勢相違うゝこゝ。然ひの通両人氏りのく後見に
ゆること。本国の老臣名。則代まりの用ゝゝて。右大将頼朝
ふ面渇しまう。貢尾ゝく事出ゆ。友衡を松ヶ崎の別荘
に隠居せし。側役波邪新三郎を。後川淀氏廿三人と
ぐく知り氏減し。者ゆ困門ゆう。是接里氏をゆる科ゆ
ゆふ相撲取ゆ凡海雷槌を福氏ゆう上退放せう。ゆ人を罪く
兵庫氏ゆ組し。密事ゆ出ゆ者ゆ。ゆ人を者ゆ

屋敷にて。密よ福氏あるべき。星より四老の人々。家の仕置ばかりにて。才子を唯今まで。ひとり強金の鉱[illegible]式と知らるべきかしこ。りこの家老のうち氏司[illegible]しめ。ゆく本国より。此こた行島服谷のあんぱとすべ。ゆたは智氏異豆一ねぐ。才子ぐ奸曲なる氏藏。こしのくらぶ。才子ぐ人あ吉道ふとうもりこ氏。とぞふ舩田ぐうめふ其悪事氏見出されうこ仰らるとつぐ。もの者さあ家の大事氏思ひ。しこ。番代を子のくとつげ。ぐく国へ。双十郎弟乃も嘗ゆく才子氏ゆ氏ゆ氏。兵庫氏。今度桃子家より番代を中付んとせゆ。とてゆる氏仰ゆく。ゆゆ。ゆん合点のゆゆざふ振舞ゆ。今度の強勢氏奇ひゆ。家の番代磯とゆる自然ゆ威を一国の上氏ゆやう。家氏奪ゆ計策もなのんと此人を疑ひとうけゆ。ゆゆ。星ゆそも深ゆ逆意ありて友御氏推量氏ゆよゆゆるなまゆゆる。ゆとゆ。ゆゆ兵庫氏げくゆゆ。とゆ其附ゆ氏ゆゆざゆき。此事い漫ゆ河亜ゆ左ゆゆ返ゆ忠て。才子岩堀の積要氏ゆものゆゆ。ゆ忠治のゆゆゆゆゆゆ。ゆゆ。第刀大ゆゆ漸慨